

## 初歩からの読譜力の向上

千葉県立 ○○○○ 高等学校 ○○ ○○ (音楽)

### 1. はじめに

本校は1学年5クラス、2・3学年4クラスの普通科の学校である。

本校の生徒は明るく元気な生徒が多く、前向きな表現をすれば、「人懐っこい」と言える。しかし、さまざまな場面で苦勞も多いが、なるべく根気よく指導を続けている。

また、学力面では、中学校段階の学習内容をよく理解できていない生徒が多く、そのため、自信を持ってない者がほとんどである。

芸術は4科目の中からの選択で、音楽を選択した者は、1年次で音楽Ⅰ(2単位)を、2年次で音楽Ⅱ(2単位)を履修する。1年次1学期から2学期前半にかけて、総合コースで学ぶか芸術コースで学ぶかのコース選択をする。

1学級40人を4科目で構成するため、人数配分は概ね各科目10人ということになる。しかし、年度によって科目間の偏りが生じてしまう。担当教員が実施する選抜試験に合格した上で在籍することができる場合や、面接や説明会のみでほぼ全員が選抜されることなく在籍をすることもある。

芸術コースを選択した生徒は、2年次より芸術に関する各科目の履修単位数が増加する。音楽選択者であれば音楽Ⅱのほかに、音楽表現(2単位)を、3年次では芸術コースのみで音楽Ⅲ(2単位)及び、卒業演奏(4単位)の計6単位を履修する。したがって、音楽に関する単位を3年間で12単位履修する。

本題材での対象生徒は、第2学年芸術コース音楽選択者7名(男子1名、女子6名)である。

芸術コース本来の位置づけは進学を視野に入れたものであるが、現在そのような生徒はほとんどいない。むしろ、音楽経験が少なく、読譜力なども身につけていない生徒が大半を占めているのが現状である。

しかし、このような生徒たちにも、楽譜と向き合って演奏することを体験させたい。このことは将来的に、音楽活動の幅、表現の幅を広げることに役立つはずである。また、学習面では自信が持てなくとも、高校時代に「音楽を専門的に学んだ。」という自覚を持ち、誇りに思ってもらいたい。

そのような願いから、まずは音楽活動に最低限必要である「読譜力を身につけさせること」が芸術コースを選択した生徒への重要課題とした。

専門的な学習内容に取り組むことにより、「見た目には即効性のある成果」よりも「生涯に渡って生きる成果」を身につけさせる。そのためには、楽典・聴音・コールユーブンゲン・新曲視唱といった音楽大学受験に必要な科目(分野)を重点的に学ぶ必要があると考えた。

本校生徒の実態を考えれば、楽典・聴音・コールユーブンゲン・新曲視唱などに取り組むことは、困難を含んでいるかもしれない。だが、音楽大学受験に対応するようなレベルではなくても、本校生徒の実態に応じた前述の科目(分野)、つまり、「その分野に取り組むこと」そのものに意義があると考えた。

## 2. 昨年度の取り組み

22年度、芸術コース2学年の授業では、音楽表現（2単位）の授業において、楽典・聴音・コールユーブンゲン・新曲視唱をひと通り取り組むべく実施し、23年度は、音楽Ⅲ（2単位）及び、卒業演奏（4単位）において毎時実施することにした。

しかし、実際に取り組んでみると、音楽表現の2単位だけでは時間が足らず、成果も次のようなものにとどまった。

成果としては、

- ・ 楽典 音符・休符・音部記号・譜表・音名くらい。
- ・ 聴音 4小節程度の4分音符と8分音符のA音によるリズム聴音。男子はほとんどできず。
- ・ コールユーブンゲン 3度音程にやっと入ったところ。
- ・ 新曲視唱 コールユーブンゲンの初歩段階がやっと歌える程度なので、純粋な新曲視唱など、まだ見ぬ果てである。

とてもではないが、多くの皆様に「成果が出た。」と胸を張って言えるようなものではなかった。

## 3. 今年度の取り組み

本校芸術コースでは毎年1月に柏の葉公園にある、「さわやかちば県民プラザ」において、美術・工芸・書道選択者は卒業展覧会を、音楽選択者はホールにて卒業演奏会を開催し芸術コースで学んだことの集大成として発表している。

この会は、約1時間の演奏プログラムが必要である。そのため、今まで取り組んできた、楽典・聴音・コールユーブンゲン・新曲視唱を、あまり丁寧に昨年度と同等のペースで取り組んでいると、演奏会用の練習がほとんど何もできなくなる可能性が考えられる。

そこで、卒業演奏会に向かって、頭初から合唱とリコーダー合奏の取組を計画した。リコーダー合奏は楽譜を読むことが欠かせない。楽譜を使わずになんとか音楽を楽しんでいた生徒たちに、きちんと楽譜を読んで演奏させることを第一の目的として、本題材を進めることとした。生徒にとってもっとも親しみのある楽器のひとつであるリコーダーは、運指も比較的容易であり、楽器の種類が異なっても、同じ運指で演奏できることが魅力でもある。

教材は主としてクラシック音楽を編曲したものを使用し、鑑賞などを適宜交え、曲の背景も学習していきたい。

## 4. 研究方法

(1) 発声練習を継続的に行い、響きのある発声を身につけ表現の技能を高める。

ア. 表現を工夫したいところを、思っているように表現をするために毎時間発声練習を行い、表現の技能を高める。

イ. 継続的な粘り強い指導を続けることにより、音楽活動において非常に重要な響きのある豊かな発声法を身につける。

(2) 毎時間、校歌を斉唱する

ア. 少人数で歌唱するためお互いの声がよく聞こえる。歌唱表現をすることが好きな生徒にとっては、とてもよい刺激であり、切磋琢磨して大きくはっきりとした歌声を目指す。

(3) ソルフェージュ力を高める

- ア. コールキューブングンを活用し、読譜力や音程感覚等を育成する。
- イ. 聴音に取り組むことにより、音符の種類を意識し、楽譜を書くことにも慣れさせる。

(4) アルトリコーダーの練習に取り組む。

- ア. C-dur・F-dur の音階練習をし、基礎的技能を高める。
- イ. 適切な支援をし、1音ずつ運指を確認する。

(5) アルトリコーダーの重奏に取り組む。

- ア. 童謡「とうりゃんせ」による3重奏に取り組む。
- イ. C.M.V.ウェーバー作曲：歌劇「魔弾の射手」より狩人の合唱による3重奏に取り組む。
- ウ. 視奏をすることにより、読譜に慣れ親しませる。

(6) 鑑賞を適宜取り入れ、オーケストラや合唱の豊かな響きを味わう。

- ア. 体の中から湧き出てくるような伸び伸びとした演奏の曲趣を感じ取り、自分たちの演奏に生かす。

(7) 卒業演奏会に向けての練習をする。

- ア. 既習曲の復習をする。
- イ. ある程度演奏することができるようになった段階で、ソルフェージュをもう一度学習することにより、一段ときめ細かい表現を目指す。

## 5. 指導内容

### (1) 発声練習

毎時間導入の段階で必ず発声練習を行い、校歌を歌唱する。歌唱するときは必ずピアノの周りを囲むように集合して取り組む。

のびのびと声を出して歌唱することは音楽の基本である。したがって発声練習については、ある程度の時間を費やす。主としてリコーダーに関する題材であっても、その都度方向性を示すなど、場に応じた助言をする。



## ア. 姿勢について

「足は肩幅」「視線はまっすぐやや上」また「ジャンプをして着地した状態」「目は生き生きと」など、意欲を高めたり、場の雰囲気をもたせるために、適宜様々な表現を用いる。

## イ. ハミング

- (ア) 「M」の発音で、es1 から始まり 8 拍ロングトーンをする。
- (イ) ピアノは I - IV - I の和声を付け、音の推進力を感じさせる。
- (ウ) 半音ずつ上行し、概ね b1 まで。そこから下行し、es1 まで戻る。
- (エ) のど（口の中）をたくさん開けた状態で唇を閉じる。
- (オ) 唇と鼻腔がきちんと振動するよう意識させる。そのために「目から声を出す。」という表現を用いる。
- (カ) 目と鼻の間に指をあてて振動を確認させる。
- (キ) 空気が循環するような意識を持つ。

### 譜例 1

The score for Example 1 consists of two systems. The first system shows a vocal line in 4/4 time with a long note (half note) starting on a middle C, marked with a 'p' (piano) dynamic. The piano accompaniment features a series of chords in the right hand and a simple bass line in the left hand. The second system shows a key change to a more complex key signature (three sharps) and continues the vocal line and piano accompaniment.

## ウ. 「Ma」の発音で長三和音の分散和音 (C・E・G・E・C)

- (ア) ハミングで作った「M」の響きを大切に活かし、「ま」ではなく「M」と「A」をしつかりと意識させる。「M」のときはハミングと同じ状態、「A」になっても鼻腔の響きが下顎等に落ちないように意識させる。ここでも「目から声を出す」ことを意識させる。
- (イ) 子音は拍前、母音は拍の頭につくことを意識させる。「M」を拍頭にすると、「A」の音が遅れて聞こえるため、響きや流れが重くなり、それが曲では顕著に表れることを意識させる。
- (ウ) c1 から始め、最高音は概ね es2 程度。状態を見て適宜音域を変える。低音域では鼻腔に加えて胸郭への響きも意識させる。

### 譜例 2

The score for Example 2 consists of two systems. The first system shows a vocal line in 4/4 time with the syllable 'ma' repeated five times. The piano accompaniment features a series of chords in the right hand and a simple bass line in the left hand. The second system shows a key change to a more complex key signature (three sharps) and continues the vocal line and piano accompaniment.

- ウ。「Pa」の発音で長三和音の分散和音を1オクターヴ(C・E・G・高C・G・E・C)
- (ア)「M」と同様に唇を一旦閉じる発音である。「M」に対して、発音の直前に、より高い息の圧力がかかる。頬が少し膨らむと同時に、喉が広がることを実感させる。
- (イ) 圧力を利用して、速い速度の息を出し、はっきりとした発音で響きのある声を出すことを心がけさせる。当然響きは鼻腔に集める。
- (ウ) c 1 から始め、最高音は概ね e2 程度。状態を見て適宜音域を変える。  
低音域では鼻腔に加えて胸郭への響きも意識させる。
- (エ) 第5音からオクターヴ上の根音へ4度の跳躍があるため、根音をイメージして狙って発声することを意識させる。

### 譜例 3

### (2) 校歌の歌唱

- ア. 発声練習終了後、自席まで楽譜が閉じ込まれたファイルを取りに行き、すぐに再集合する。この段階で初めて楽譜を手を持つ。
- イ. 楽譜を持ち、楽譜を見ながら歌唱する。  
生徒が「覚えている」「暗譜した」などと発言する場合、ほとんどが「歌詞がわかり、メロディを口ずさむことができる。」というものであることが多い。楽譜上で歌っている音符の種類、幹音(高さ)を意識しながら歌唱させる。つまり、「なんとなくわかっているつもり」の生徒に視唱させることが目的である。
- ウ. 階名唱をする。  
固定ドで歌唱する。「Re」のRは巻き舌を用い、「Si」は「スイ」と発音する。
- エ. ドレミなど、カナを振らせず、あくまで楽譜を読む練習をする。



### (3) コールユーブンゲン

ソルフェージュ力の向上というだけでなく、音楽の基礎でもあるこの教材を粘り強く取り組む。以下の点に特に気をつけ、より正確に歌唱することができるよう指導する。

#### ア. 音程（音高・ピッチ）

- ・ 30 秒程度楽譜を見て、心の中で歌う。
- ・ 最初の音をピアノで弾き、歌唱する。
- ・ 最初の和音をピアノで弾き、歌唱する。
- ・ 狂いやすい音を抽出して、部分的にピアノで弾き、歌唱する。
- ・ 狂いやすい部分以外を弾き、その箇所をハミングし、直後にピアノで弾いて確認する。
- ・ 曲を通してピアノで弾き、歌唱する。
- ・ 曲を通してピアノで弾き、同時に歌唱する。
- ・ 長三和音の響きから、3 度音程や 5 度音程を正確に取る練習をする。（譜例 5）

○上記の練習方法を適宜用いる。

#### 譜例 4 コールユーブンゲン No.18 -f

#### 譜例 5 3 度音程の練習

①

②

③



イ. リズム(音価)

- ・様々な拍子に慣れ、正しい音価で歌唱できるようにする。
- ・普段あまり目にする事のない「2分の2拍子」や「2分の3拍子」の練習をする。

譜例6 コールユーブンゲン No.18-c



ウ. 拍子感とアクセント

- ・強拍、弱拍をきちんと意識し、流れが感じられるように歌唱する。
- ・シンコペーションが明確に分かるような歌唱をする。
- ・コールユーブンゲンにアクセントの表示が書いていない場合にも、きちんとアクセントを意識して歌唱する。

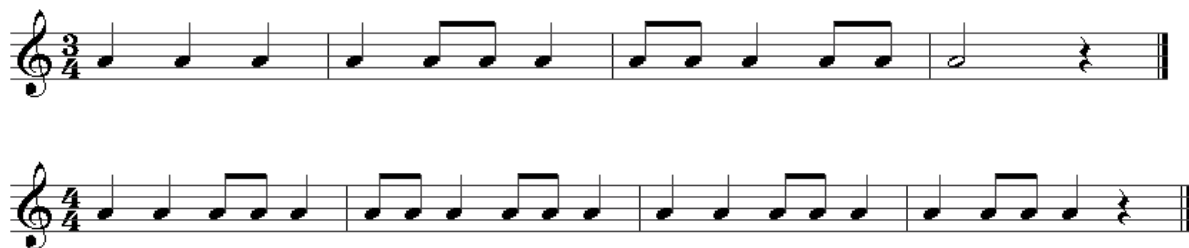
譜例6 コールユーブンゲン No.15



(4) 聴音

- ・A音のみを使用したリズム聴音から始める。
- ・基本的に4回で採ることが目標である。
- ・分からない段階で回答をせず、分かるまで弾き(聴き)、自らの力で正しい記譜をすることを旨とする。

譜例 7



(5) アルトリコーダー

F 管であるアルトリコーダーであるから、F-dur から練習するべきとのご意見を伺ったことも多数ある。しかし、本校生徒の実態からすると、誰にでも馴染みのある「ドレミ～」から始めたほうが理解しやすく、その後の発展も見込めると判断した。したがって、本題材では、まず、はじめに C-dur の音階を練習し、ある程度演奏できるようになった段階で F-dur の音階を練習することとした。

また、練習の効率化を図るため、運指は全て番号で示す。

ア. C-dur の音階練習

- ・音階の楽譜を板書し、そのとき出している音の音名を、楽譜を見て意識させる。
- ・毎時、各音の運指を確認する。教師が実際に示し、番号を口頭で確認する。
- ・教師が「ド」「ミ」等を言い、その音を吹く。
- ・教師が吹いた音の音高を当てる。
- ・板書された楽譜のうち順不同で指し示した音譜の音を吹く。
- ・音階練習 2 拍 (c1~c2) (g~c1) (c2~g2)

○上記の練習方法を適宜用いる。

譜例 8



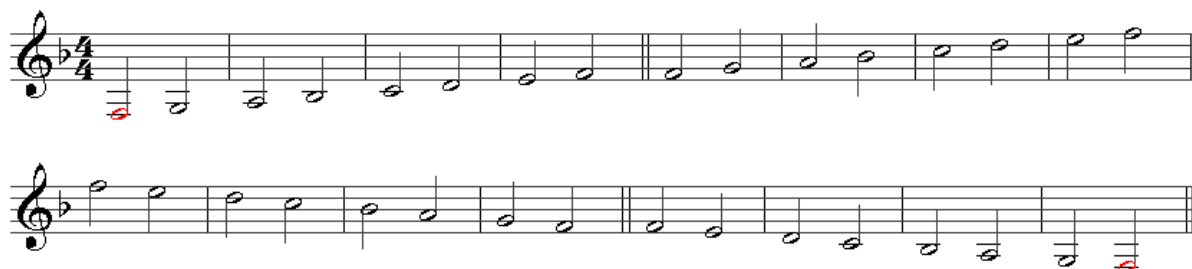
イ. F-dur の音階練習

基本的に C-dur と同一の練習方法で行う。予想されることは「B」の運指で必ずといっていいほど混乱が生じる。

リコーダーはそもそも「バロック式」の運指によるものであること等を説明し、F-dur への理解を深めさせる。



## 譜例 9



### ウ. 楽曲

#### (ア) 童謡「通りゃんせ」

比較的簡単な音符が配列されているため、読譜の慣れていない生徒にも、比較的わかりやすく視奏しやすい曲である。しかし、音域が広く、技術的には決して容易ではない。楽譜をよく理解し、表現の工夫をすることにより、叙情的な演奏が可能な楽曲であるため、選曲した。

調性は **d-moll** (都節)、4分の2拍子である。**F-dur** の平行調であり、運指は何ら問題なく演奏することができる。

今回取り扱う楽譜は3パート用に編曲されているホモフォニーの曲である。1st はほとんど全曲に渡って主旋律であり、2nd、3rd は主としてハーモニーによる伴奏である。

下2声が奏する長い音符の上に、1st が動きのある旋律を奏するなど、合奏では、運指等の個人技よりもアンサンブル上の技量が必要な曲である。

#### (イ) 歌劇「魔弾の射手」より 狩人の合唱

**F-dur**、4分の4拍子、言わずと知れたドイツロマン派初期の最高傑作の中から、有名な場面の音楽である。

歯切れが良く、軽快な音楽であり、16部音符など細かい音符が多く用いられているが、読譜は比較的容易である。また、リズムの心地よさと、ハーモニーの美しさを感じることができる楽曲であるため、選曲した。

3パート用に編曲されているが、3パートとも共通したリズムが多く、後半1stパートには装飾音符がついている。はじめは合わせにくい、アンサンブルの楽しみを味わうことのできる曲である。ハーモニーやバランスを整えながら躍動感を出すことが求められる。

また、この曲はCDでも幾多の名演奏が残されている。原曲を聴くことで、オペラへの理解や親近感も感じてほしい。

## 6. 指導計画

本題材は2年生芸術コース音楽選択者による展開である。読譜力の向上を目指しているが、そのためには、前述の通り、本題材だけにとどまらず、年間を通して取り組むべき事項も多数ある。本題材では主としてコールユーブンゲンを使用したソルフェージュの訓練や、リコーダー合奏を通して、音楽に親しみながら読譜に親しむことを目指す。

	発声練習	校歌	ソルフェージュ	器楽
1	ハミング、ma、pa	視唱、階名唱	コールユーブンゲン No.14 No.15	C-dur の運指の確認 音階練習
2	ハミング、ma、pa	視唱、階名唱	コールユーブンゲン No.16 No.17	F-dur の運指の確認 音階練習
3	ハミング、ma、pa	視唱、階名唱	コールユーブンゲン No.18	F-dur 2 オクターヴ の運指の確認 音階 練習
4 (本時)	ハミング、ma、pa	視唱、階名唱	コールユーブンゲン No.19	「通りゃんせ」 1st 全員で練習
5	ハミング、ma、pa	視唱、階名唱	コールユーブンゲン No.20 No.21 No.22 No.23	「通りゃんせ」 2 nd 3rd 全員で練 習
6	ハミング、ma、pa	視唱、階名唱	コールユーブンゲン No.23 聴音	「通りゃんせ」 パー ト決定、3パート合奏
7	ハミング、ma、pa	視唱、階名唱	コールユーブンゲン No.24 4度音程の練習	「魔弾の射手」 1st 全員で練習
8	ハミング、ma、pa	視唱、階名唱	コールユーブンゲン No.25	「魔弾の射手」 2 nd 3rd 全員で練 習
9	ハミング、ma、pa	視唱、階名唱	コールユーブンゲン No.26 聴音	「魔弾の射手」 パー ト決定、3パート合奏
10	ハミング、ma、pa	視唱、階名唱	コールユーブンゲン No.27	「魔弾の射手」 鑑 賞、3パート合奏

## 7. 生徒の変容

現在中学校では「合唱コンクール」に重きを置いた教育計画・授業内容になっているようである。それは、良い面もたくさんあるのだが、音楽の基礎的な学習をしないまま高等学校へ進学してしまうことにもなる。その結果「聞き覚えでなんとなく歌う合唱」に慣れてきた生徒たちは、「音楽を形成しているさまざまな要素」について学ぶことを嫌がる傾向がある。

当初は現3年生で取り組むはずであったこの研究もその影響が非常に強く現れたため、主として現2年生で取り組むこととなった。音楽理論や基礎的なトレーニングに重点を置いて取り組むことを前提に芸術コースの人員を募集した学年だけあり、目的意識や意欲については期待通りのものを示してくれた。

しかし、前述のように読譜力が圧倒的に低い生徒たちは、文字通り「ド・レ・ミ～」から始めることとなった。その「ドレミ」もままならない1学期前半から比べると、1学期後半には拍子を正確に感じるができるようになった。やがて「拍子感から生まれる音楽の呼吸」を、聴いている私が感じ取ることができるようになってきた。

本当に少しずつではあるが、「読譜力」「拍子感」「和声感」「音程感覚」などが総合的に育って

きた。今回の研究で実践したことを粘り強く継続し、楽典の学習を充実させ、理論と実践の相乗効果を計りたい。

#### 8. 終わりに

教科研究員のご指名を頂き、驚き・戸惑い・不安だらけで開始してから1年半以上が経過し、研究報告書の最後を締める文章を作成するところまでたどり着きました。お世話になった大槻指導主事、小川指導主事、千葉東高等学校の青木先生、研究員の鈴木先生、大谷先生、また、公私共に私を支えて下さっている多くの先生方に深く感謝いたします。

この研究を開始した時、私は県立館山総合高等学校から転任したばかり、鉄道や道路の走行距離で言えば、約120km離れた学校への転勤でした。当時の私は、前任校で定時制を兼務しながら、担任として卒業生を見送った直後の、予想もしない2年生の担任や、免許状更新講習開始、5年経験者研修、などが重なってしまい、「あらゆるものが降りかかってきた。」という状況でした。また、初任の愛知県田原市立東部中学校では、5年目に今回と同様に研究の指名を受け、研究報告を名古屋国際会議場で発表したこともありました。ですから、2度と来ないであろう大役に2度も仰せ付き、「途方に暮れてしまった。」というのが正直な感想でした。

しかし、始めたからにはやるしかないのですが、学校の実態を把握するまでには、幾度となく「計画・実行・改善」の繰り返しでした。思うように進むことなどほとんどなく、研究協議会の度に諸先生方のご助言を頂き、壁にぶつかりながらの研究でした。その甲斐があり、振り返ってみると、失敗を機に学んだことがたくさんあり、本当に良い機会に恵まれたと感謝しています。

さて、私は小学校卒業までは特に音楽とは縁がありませんでしたが、中学校時代の部活動が人生の進路を大きく決定付けました。船橋市立御滝中学校管弦楽部、千葉県立津田沼高等学校管弦楽部・音楽コースの出身で、両校でヴァイオリンを弾いていました。現在は演奏活動からは離れていますが、いつまでも私は楽器が大好きです。今回の研究を、今後の自分の人生、特に大好きな吹奏楽指導の分野で活かせるように努力を重ねてまいります。先生方、よろしくお願いいたします。

- 1 日時 平成23年10月7日(金) 第5限 音楽室
- 2 学級 2年D組 芸術コース音楽選択者(男子1名 女子6名)
- 3 目標 読譜力を高め、視唱や視奏、及び記譜することに慣れ親しむ
- 4 教材 ・コールユーブンゲン ・アルトリコーダー  
・通リゃんせ、魔弾の射手より「狩人の合唱」(アルトリコーダー3重奏)
- 5 題材名 初歩からの読譜力の向上
- 6 学級観 少人数であるため、和やかな雰囲気である。おとなしくまじめな生徒が多いため、歌声が小さいことは否めない。しかし、目的意識が乏しい上級生に比べると、「音楽を学ぼう」とする意識が高く、ソルフェージュなどの基礎的な練習や、楽典などの座学の授業にも前向きに取り組むことができる。

中学校時代吹奏楽部に所属していた生徒が4人いる。I子は全体のまとめ役であり、学習意欲も最も高い。最も読譜力が高く、「Re」や「Si」の音もきれいに発声することができる。H子はおとなしいが着実に学ぼうとする。歌声こそ小さいものの、リズム音価はある程度正確に読み取ることができる。O子はマイペースであるが、名簿順がI子の隣であるため、そのやる気にうまく支えられてがんばっている。初見は苦手であり、難しい箇所では途端に歌声が小さくなってしまう。R子は明るく音楽的資質も高い。音楽経験のないA子をうまくリードしている。A子は2年次当初は音符の種類や音価、五線譜の読み方など全くといってよいほど読めなかったが、仲間の支えもあり、着実に視唱に慣れ、読譜力が向上している。C子は音楽経験こそないが、感受性が豊かであり、鑑賞の授業では毎時間とても生き生きとした眼差しで視聴している。歌声の音量は小さいが、間違えを恐れずに意欲的に視唱課題に取り組んでいる。

唯一の男子A男も音楽経験がないが、まじめに活動に取り組んでおり、通常学校保管であるアルトリコーダーを自宅に持ち帰って練習するほどの努力家である。今年度当初は非常に苦手であった視唱も、努力の甲斐があり、着実に読譜力が向上している。

- 7 指導計画
- |       |                     |               |
|-------|---------------------|---------------|
| 1時間目  | C-dur の運指の確認        | 音階練習          |
| 2時間目  | F-dur の運指の確認        | 音階練習          |
| 3時間目  | F-dur 2 オクターヴの運指の確認 | 音階練習          |
| 4時間目  | 「通リゃんせ」             | 1st 全員で練習     |
| 5時間目  | 「通リゃんせ」             | 2nd 3rd 全員で練習 |
| 6時間目  | 「通リゃんせ」             | パート決定、3パート合奏  |
| 7時間目  | 「魔弾の射手」             | 1st 全員で練習     |
| 8時間目  | 「魔弾の射手」             | 2nd 3rd 全員で練習 |
| 9時間目  | 「魔弾の射手」             | パート決定、3パート合奏  |
| 10時間目 | 「魔弾の射手」             | 鑑賞、3パート合奏     |

8 題材の評価規準

ア. 関心・意欲・態度	イ. 芸術的な感受や表現の工夫	ウ. 創造的な表現の技能
①視唱や視奏に積極的に 取組み、読譜力を高め ようとしている。	①きれいなブレスコントロール を意識し、曲趣を生かした表現 を工夫している。	①響きのある声を意識しな がら表現を高めている。
②音楽表現の目標を持 ち、達成に向けて、成 果と課題を確認しなが ら、主体的に音楽活動 に取り組んでいる。	②拍子の特徴を生かした表現を 工夫している。	②基準となる音を聴き取り、 正確な音程感で歌唱してい る。
	③模範となる演奏を聴き、音楽 を形づくっている要素を聴き とり、自らの表現に生かしてい る。	③正しい音程、拍子感を感じ ながら、視唱および視奏し ている。
		④正確な運指で楽器の特 徴を生かした美しい音色で 演奏している。

9 本時の指導 4 / 10

□指導上の留意点 ◇評価

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ・ 教 師 の 支 援
○発声練習をする。	□よい姿勢を心がけさせる。 □響きのポイントなどを確認する。
○校歌の斉唱をする。	□よい姿勢を意識しながら、響きのある声で歌う。 □階名唱は、特に姿勢に注意し、自信を持った歌声で歌う。
○3度音程を取る練習をする。	□ピアノで3和音のうち2つの音を弾き、音程感を感じ取り ながら歌唱できるようにする。  ◇基準となる音を聴き取り、正確な音程感で歌唱している。 (ウー②)
○コールユーブンゲン ・No. 19を練習する。	□Reの巻き舌やSiの正確な発音を目指し、繰り返し歌唱し ながら表現を高めていく。 □アクセントに着目して、拍子の流れを感じながら、歌唱表 現を工夫していく。  ◇拍子の特徴を生かした表現を工夫している。(イー③)

<p>○アルトリコーダーの練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運指の確認</li> <li>・ 音階練習 C-dur F-dur</li> <li>・ 楽曲の練習「通りゃんせ」主旋律</li> </ul> <p>○本時を振りかえり、次時の課題を確認する。</p>	<p>□良い姿勢を意識しながら練習をすすめる。</p> <p>□板書した楽譜を用い、演奏している音を楽譜上で確認していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 間違えやすいB音とH音の運指を確認する。</li> <li>・ 低音域は「To」という、やわらかく息の速度が遅いタンギングで、中・高音域は「Tu」というはっきりとした息の速度が速いタンギングを提示し、実際に発音しながら意識化を図る。</li> </ul> <p>□楽曲をピアノで弾き、旋律を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイやスラーなどのアーティキュレーションにも着目し、表現を高めていく。</li> <li>・ 高音域の音を丁寧に発音する。</li> </ul> <p>□練習したポイントを整理し、演奏をまとめる。</p> <p>◇正確な運指で、楽器の音色を生かした美しい発音で演奏している。(ウー④)</p> <p>□本時の練習を振り返り、各自、次時の課題を確認する。</p>
--	---